



薪ストーブの炎を楽しみながらアートギャッベの上でくつろぐ。愛犬もギャッベがお気に入り。



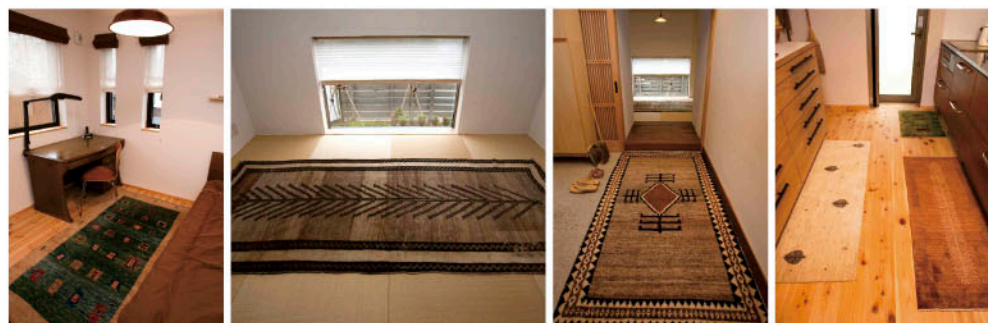
右/リビングにはルリバフトと呼ばれる古典文様のオールドギャッベが。中/ベンチに敷かれたミニギャッベ。左上・下/自然素材100%なので小さな子どもにも安心。

事例1・今井邸 使うほどに味わいを増し 愛情も思い出も増えていく

竣工して間もないこの家は、ギャッベの選定人、今井正人さんのお宅だ。シンプルモダンな室内に、大小さまざまなギャッベがさりげなく敷かれている。そんなプロの使い方はとても参考になるだろう。

玄関ドアを開けると土間に1枚のギャッベ。その前で靴を脱ぎ、ギャッベの上を歩いて室内に入るようになっていく。「訪れた人をギャッベで迎えたいと考えました。もともとギャッベは大地の上で使うもの。とても丈夫なんです」(今井さん)

リビングには、ルリバフトと呼ばれる古典文様のオールドギャッベが敷かれている。30年ほどイランの商家で使われていたものだそう。時間を蓄積したオールドギャッベが、真新しい室内に落ち着いた空気を漂わせている。和室には3世代に渡り使われていたという100年もののアンティークギャッベが。生命の樹がデザインされ、いつも長老が座つ



右から/キッチンでも一年を通して重宝する。/玄関土間に敷かれたメダリオン柄のオールドギャッベ。/和室には生命の木が描かれた100年もののアンティークギャッベが。/長男の個室に敷かれたモダン柄のギャッベ。

ていた部分が擦り切れていて、それがまた味わいとなっている。

長男の個室にあるギャッベは、これまで住んでいた家のリビングでずっと使っていたもの。いずれ独立する時に家族と過ごした思い出にもたせるつもりだという。ライオンを描いた2枚のギャッベは、現在小6の

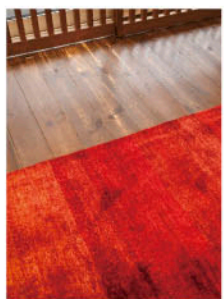
長女が幼稚園児のときに描いた紙版画をもとに現地で織ってもらった特別なギャッベだ。

「ギャッベは100%自然素材で手づくりされたもの。使うほどに味わいが増して、愛情も思い出も増えていく。家族とともに育っていく楽しみがあるんです」(今井さん)

事例2・長谷川邸 家族が自然と集まる 夏も冬も心地よい肌触り

山小屋のような雰囲気をもつ長谷川邸では、薪ストーブを設置したのびやかなリビングに、赤い大きなギャッベを敷いている。「インテリアショップで出会い、自然な色彩や風合いに強くひかれました。夏はサラッと、冬は暖かい肌触りがとても心地よいですね。主人や私はもちろん、4歳の息子や愛犬も自然とここに集まってくるんですよ。みんな心地よい素材や場所をよく知っているようですね」(奥さま)

購入したときよりも色目が少し落ち着き、風合いも深まってきているという。そんな経年変化の楽しみも、木の家と同じ本物の素材だけが持つ魅力と言えるだろう。



草木染めによる自然な色合いは木や自然素材の家にすんなりと調和する。